

課題名： 東日本大震災津波伝承館を拠点としたゲートウェイ機能に関する調査
研究代表者：総合政策学部 教授 山本健
課題提案者：東日本大震災津波伝承館
技術キーワード：道の駅、三陸沿岸道路、観光、交流、産業経済

▼研究の概要（背景・目標）

東日本大震災津波伝承館には、来館者が他地域へも足を運ぶ「ゲートウェイ機能」を強化することを通じて、地域の交流人口の創出、ひいては沿岸全体の地域活性化を促す役割を果たすことに対する期待が寄せられている。これを具現化するために来館者の動態を把握することを目的に、伝承館への来館客に対するアンケート調査を行った。その成果を踏まえ、関係者との間で意見交換を交えながらマーケティング思考の取組を検討した。

▼研究の内容（方法・経過）

研究期間に入ると新型コロナウイルスの感染の状況が深刻さを増し、当初計画していた学生を登用して調査を実施することが困難に陥った。4月7日から非常事態宣言が発出され順次全国に拡大され、感染状況の落ち着きを見て完全に解除される5月25日までの間、伝承館自体も閉館を余儀なくされた。再開後は来館者数こそ急回復を見せたものの、大学生や高校生に調査を依頼しようという計画は撤回せざるを得ず、2020年9月から10月にかけて伝承館のスタッフが、来場者ひとりひとりに声をかけて調査を行うこととなり、最終的に601名からの有回答を得た。

▼研究の成果（結論・考察）

- ・ 県内の来館者の15%、県外の7%、全体では10%がリピーター。
- ・ 来館前後の立ち寄りポイントは気仙沼、陸前高田、大船渡が多数を占めるが、宮古以北から石巻、仙台まで広範囲に移動している人も多かった。
- ・ 県内はTVや市広報などマス媒体から、県外はネットやSNSからの情報を頼りに来館していた。
- ・ 伝承館を起点として訪れたい観光拠点は道路整備を反映してより広域化していたことが分かった。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

- ・ 来館者の多くは気仙沼市との間を往来。県の壁を取り払って相互に情報提供を行うなど連携を深めること
- ・ ウェブやSNSを通じたきめ細かい情報提供がきわめて重要
- ・ 気仙沼市の東日本大震災遺構・伝承館、釜石市のいのちをつなぐ未来館、宮古市のたろう観光ホテルとの連携。情報発信の相互協力。
- ・ 友人知人からの勧めによって来館した人の満足度が高かったことから、特にインフルエンサーの満足度を高めるための対策検討の重要性
- ・ 三陸沿岸道路整備の進捗や感染症の状況に応じた変化を把握するためにも調査の継続が重要

